

保育内容演習・言葉	2年 後期		演習1単位	担当教員名	大平 雅弘
	卒選	幼必 保必			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ① テーマ：子どもの思いに寄り添って「言葉」の世界を広げる保育者に求められる知識と実践力を身につける。 ② 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言語発達過程を概観し、ことばを身につけるということの意味を理解する。</li> <li>・子どもの発達（身体・人間関係・環境とのかかわり）とことばとの関連を理解する。</li> <li>・ことばの発達をうながす援助について（保育の計画・保育者の役割・小学校との連携等）理解する。</li> <li>・読み聞かせや紙芝居、ことば遊び等の演習を通して子どもの言葉の世界を広げる技能を身につける。</li> </ul>					
<b>授業の概要</b> 現今の社会状況の中で「言葉の少ない子ども」が増えている。子どもは育ててくれる周囲の大人が語りかける言葉と、その子どもの生きる世界を少しずつ結びつけて、言葉の世界を作り上げていく。言葉という人間のもつ文化の豊かさを、保育者はどのように育んでいくことができるのか、ということ念頭において学習を進めていく。 単に、言葉を教えるとか、正しい言い方を教えるということではなく、子どもに寄り添って「言葉」の世界を広げたり、お話の中の「言葉」に子どもと一緒にひたったり、子どもの考えのプロセスを「言葉」に置きかえて関わったりすることのできる「センスと技能」をもった保育者を育てていく授業にしたい。					
<b>授業計画</b>					
コマ(回)	項目	内容			
1	幼児教育と言葉	・言葉の機能 ・言葉の8つの分野			
2	言葉の発達	・乳児 ・幼児前期 ・幼児後期 ・言葉の発達と母親の言葉			
3	脳と言葉の発達	・運動機能と言葉の発達 ・視覚（触覚 聴覚）と言葉の発達			
4	聞くこと・話すこと	・乳児の言葉指導 ・幼児前期の言葉指導 ・幼児後期の言葉指導			
5	読むこと・書くこと	・発達に即した環境と対応 ・文字の力を育てるためには			
6	言葉あそび	・言葉の少ない子ども達 ・乳児（幼児）の言葉遊び ・保育者の勉強			
7	劇あそび	・劇あそびの教育的意義 ・年齢別役割あそびと劇ごっこ			
8	絵本（童話）の読み聞かせ	・どのように読み聞かせるか ・読み聞かせの留意点			
9	人形劇・紙芝居	・保育の中の人形劇 ・紙芝居の演じ方			
10	お話	・お話の仕方			
11	わらべうた・テレビと視聴覚	・わらべうたと言葉 ・テレビの特性 ・幼児のテレビ視聴			
12	言葉の障害 ①	・言葉の障害の種類 ・障害をもつ子どもに対しての保育者の心がまえ			
13	言葉の障害 ②	・さまざまな障害の種類に応じた言葉指導のポイント			
14	保育者の言葉 ①	・保育者の「言葉」への関わりや対応の重要性			
15	保育者の言葉 ②	・保育者の対応の留意点（子どもへの対応 保護者への対応）			
定期試験	実施しない				
テキスト	「保育 言葉の実際〔第2版〕」 大久保 愛・長沢 邦子 編著 建帛社				
参考図書	「保育内容「言葉」」 柴崎正行 戸田雅美 他編 ミネルヴァ書房				
教員の評価方法	授業態度（30%）、演習（読み聞かせ おはなし等）での発表（40%）、課題の提出状況と内容（30%）等を総合的に評価する。				
準備学習等 履修上の留意点	読み聞かせ 紙芝居、おはなし等、発表のために各自練習をしておく。				